

学研・教科の研究

体育・保健体育ジャーナル



次期学習指導要領を見据えた、
体育・保健体育授業の充実に向けて
株式会社 Gakken 編集部

ICTの活用で豊かに賢く関わる体育授業に
—デジタル版「みんなの体育 教師用指導書」のご案内—

連載 ICT実践レシピ vol.10

連載 体育・保健体育と日常をつなぐ 保健室ギャラリー 第9回

連載 WITH SPORTS 富山 晋司さん(バスケットボール男子日本代表チームテクニカルスタッフ)

第 25 号
2024

Gakken

次期学習指導要領を見据えた、 体育・保健体育授業の充実に向けて



株式会社Gakken 編集部

1 第4期教育振興基本計画と 体育・保健体育

令和5年6月に閣議決定された「第4期教育振興基本計画(令和5年度～9年度)」では、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う営みであるとし、この計画は予測困難な時代における教育の方向性を示す羅針盤であるとしている。

総括的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げている。

持続可能な社会の創り手の育成	日本社会に根差したウェルビーイングの向上
<ul style="list-style-type: none"> ● 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる ● 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上 ● 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

出典：文部科学省「第4期教育振興基本計画(リーフレット)」をもとに作成

ウェルビーイングは、身体的・精神的・社会的によい状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念である。日本においては、社会・文化的な背景を踏まえて、「調和と強調」に基づくウェルビーイングとしているところに特徴がある。

学習指導要領に示された小学校体育科や中学校保健体育科の目標には、「心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフ

を実現するための資質・能力を育成することを目指す」とある。特に中学校においては、健康の観点で「自他の健康の保持増進」、豊かなスポーツライフの観点で「公正に取り組む」や「互いに協力する」、「一人一人の違いを大切にしようとする」などがその解説に明記され、ウェルビーイングの向上につながる視点がすでに含まれていることを読み取ることができる。

また、教育振興基本計画において「教育に関連するウェルビーイングの要素」として挙げられている事項は、体育・保健体育の学習内容との関係が深いことがわかる。

〈教育に関連するウェルビーイングの要素〉

- 自己肯定感
- 心身の健康
- 幸福感
- 協働性
- 社会貢献意識
- 自己実現
- 学校や地域でのつながり
- 安全安心な環境
- 多様性への理解
- 利他性
- サポートを受けられる環境

これらのことから、現在の学習指導要領の目標を念頭に指導計画を立てていくことで、教育振興基本計画に示された方針に沿うことができるといえる。

2 学習指導要領の 実施状況から見る成果と課題

令和6年7月に開催された「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会」において示された小学校学習指導要領実施状況調査(令和4年度調査実施：ペーパーテスト調査)では、以下のよう

運動領域においては、公正、協力、責任、参画、共生、健康・安全に関する態度の理解については、90%ができていたのに対し、運動の目的の理解や課題解決の仕方を工夫することに関する思考力・判断力については、37～38%程度の正答率であった。

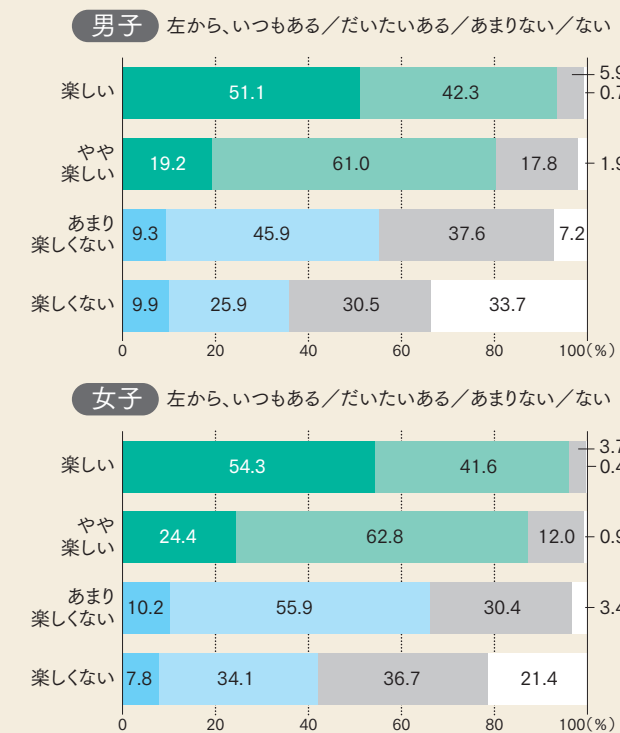
保健領域では、学んだ内容の知識の理解については90%を越す反面、児童の日常生活から遠い内容や、健康の原則・概念と生活行動を結び付けて考える設問では40～60%程度の正答率であった。

以上から、課題発見力や解決に向けた方法の選択といった思考力・判断力につながる指導・学習がより重要になってくることが課題として挙げられている。

3 体育・保健体育の学習活動と ウェルビーイング

「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果では、体育・保健体育の授業を『楽しいと感じる』かどうかと、『できたり、わかたり』するための学習活動には、深い関係があることが表れている。(図1)

図1 「保健体育の授業は楽しい」と「保健体育の授業で友達との助け合い、教え合いを行うことで『できたり、わかたり』することがある」の関係(中学校)



出典：スポーツ庁「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」をもとに作成

保健体育の授業では、すでにグループなどでの協働的な学びが浸透しているものと推察されるが、この調査結果から、「教え合う」ような学習活動が、「できたり、わかたり」につながっているかに着目して振り返ってみることが大切といえそうである。知識・技能の向上という面のみならず、できたことや認められたことによる自己肯定感、他者への関わりが「役に立った」と感じられることによる利他性などにもつながることから、学習活動そのものがウェルビーイングにつながると考えられる。また、このような「実感」を積み重ねやすいのも体育・保健体育の授業ならではといえる。

「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を、指導の計画・目標に組み入れることで、次期学習指導要領を見据えた体育・保健体育の授業の充実が図れるものと思われる。ICT機器やデータの利活用は、「できた、わかたり」を支えたり、そこに至る過程をサポートしたりする手段として、その効果や場面に合わせて充実されることが望まれる。

学研 学校教育ネットで好評連載中 /

子どもを運動好きにするために 大人が大切にしたいこと

東京・山梨動きづくり研究会編

子どもを運動好きにするために大人が大切にしたいこと

- 2024.07.09 第8回 運動遊びのアイテム⑧ ベアから集団へ広がる運動遊び
- 2024.07.02 第7回 運動遊びのアイテム⑦ ベアで動く・動かされる運動遊び
- 2024.06.25 第6回 運動遊びのアイテム⑥ 模倣や想像を生かした運動遊びその2
- 2024.06.18 第5回 運動遊びのアイテム⑤ 模倣や想像を生かした運動遊び

https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/reading_category/playleader/



ICTの活用で豊かに賢く関わる体育授業に

小学校体育副読本



—デジタル版「みんなの体育 教師用指導書」のご案内—

詳しくは、学研 学校教育ネットで公開中!
https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/elementary_school/4313



これからの体育の学びを支えます!

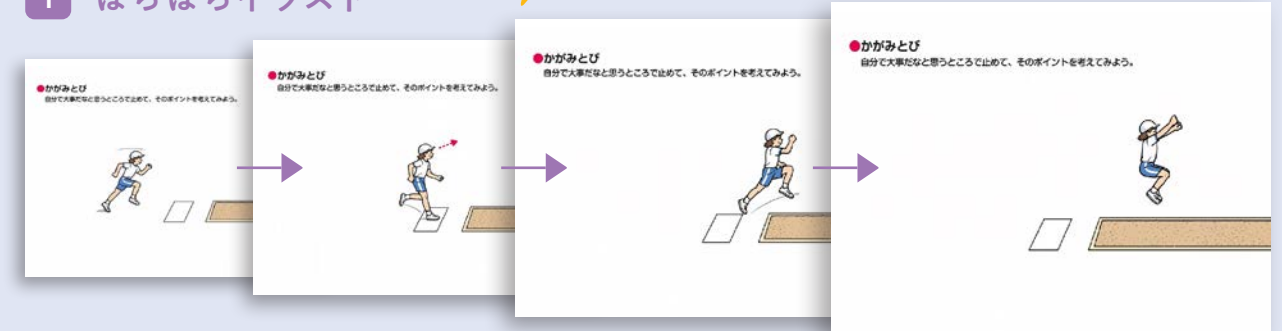
デジタル版「みんなの体育 教師用指導書」は、児童同士、児童と教師が豊かに賢く関わり合う体育授業を目指して、役立つ機能・コンテンツを豊富に搭載しています。デジタル版の紙面上からは、「ぱらぱらイラスト」「学びの場面チェック」「技能動画」の3種類のデジタルコンテンツにアクセス可能で、お手本動画をただ見るだけでなく、場面に応じてより効果的にICTを活用して指導することができます。

※デジタル版では、「みんなの体育」児童書に加えて、教師用指導書に掲載の「朱書き編」「解説編(体育の基本的な考え方と編集方針)」を収録しています。

体育の学びを支える、3種類のデジタルコンテンツ

ポイントで止められて使いやすいと大好評!

1 ぱらぱらイラスト



児童書紙面に掲載のイラストが連続的に表示されるので、児童が止めたいポイントで一時停止しやすく、操作時間を短縮することができます。動き中のポイント「ぱらぱらイラスト」で、一連の流れは「技能動画」でと、ねらいに応じて活用できます。

2 学びの場面チェック



児童書にある授業中の協働的な学習場面の「吹き出し」を空白にしました。学びの場を認識し、言葉かけも考え、考える、判断する場面が自然と生まれます。

主体的な関わりが生まれやすい!

3 技能動画



スロー再生も搭載

さまざまな技能の「お手本」として活用できます。

「ワークスペース」機能を活用し、簡易指導案を作成可能

その時間に行う動きや活動だけを抜き出して順に示したり、簡易指導案として、学年間などで共有したりすることもできます。また、指導の記録として保存することも可能です。



児童書紙面の一部を切り取り、ワークスペースに貼り付けることで学習内容を焦点化できます。

簡易指導案や学年間での共有に。

ツールバーから「ワークスペース」を選択

例) デジタル版「みんなのたいいく1年 教師用指導書」

デジタルコンテンツのある箇所にはDのマーク

操作しやすいツール

指導に役立つワークスペース機能



ペン、ふせん、拡大・縮小などのツールはシンプルな操作性で、直観的に使用することができます。

児童書ページでは、リンクボタンDから、各学年のデジタルコンテンツの一覧ページにアクセスすることができます。



GIGAスクール構想により児童生徒一人につき1台の端末が配備されたことを受けて、すぐに授業に取り入れられるおすすめのICT活用法をお聞きました。

目的に応じてICT機器を使い分け、児童の協働的な学びにつなげる実践



福島県伊達市立伊達東小学校
塚原 直人 先生

学年 5年

内容 ポール運動「シュートバスケットボール」

- 使用端末：iPad
- 使用ソフト：MetaMoji Classroom

A どのように動いていたのかな？



B コート図を共有したチーム作戦会議



C 新たな目標設定



○活用の手順

1 自己の客観視

電子黒板を使い、前時のプレイ動画を全員で視聴・確認し、できていることおよび課題であることをメタ認知させる。(写真A)

2 協働学習

タブレットのアプリを使い、コート図を共有し、本時のねらいおよび客観視した情報をもとに協働的にチーム作戦(本時のめあて)を立案させる。(写真B)

3 ゲームの実践

話し合った作戦を意識しながらゲームを行う。

4 新たな学びへ

本時の振り返りを学習履歴(スタディ・ログ)に残し、ソフトを介し共有させることで新たな目標を持たせる。(写真C)

\ Point /

- 大型提示装置を活用し、一斉に動画を視聴させることで課題を客観視できるようにしました。動画は、プレイを俯瞰できる位置からの撮影に心掛けました。
- 実際に集まって話し合った作戦を、ソフトを介した共同編集により、まとめ・共有をさせ、プレイ中も個人で振り返ることができるように工夫しました。
- 他の教科でも、授業の振り返りはソフト内に記録・累積・共有させ、「何を」「どのように」学んだかがいつでも確認できるように工夫しています。



▲立腰指導のために作成した、内臓や背骨の位置がわかるTシャツ。フェルトやひも、手芸に使う接着芯などを活用。

卒業を控えた6年生に宮水小学校で過ごした時間を振り返ってもらうため、「数字で見る6年間」を作成しました。

身長や体重だけでなく、6年間で動いた心拍数や成長した爪の長さ、伸びた髪の毛の長さ、流した涙の量など、卒業生に自分の成長を振り返ってもらうとともに、在校生にはそれぞれの学年やこれからの成長をを考えてもらう意味を込めています。また、掲示物以外にも姿勢指導用Tシャツを日之影町養護教諭部会で作成し、立腰指導に活用するなどの取り組みを行っています。

●関連⇒保健「体の発育・発達」

宮城県日之影町立宮水小学校
養護教諭
福田 倭子 先生
(現在は日向市立日知屋小学校勤務)



体育・保健体育と日常をつなぐ

保健室ギャラリー 第9回

保健室の掲示物には、養護教諭の先生のアイデアが満載！教材や掲示物づくりのヒントにも！

夏休み前に、「応急手当」に関する掲示物を作成しました。時間を確保しやすい夏休みに、地域の普通救命講習会に参加して、「人を助ける勇気と力」を身に付けてほしいという思いで作りました。

実態アンケートから、「助ける勇気」を持つ生徒は97%と多いのですが、講習を受けたことのある生徒は28%でした。そこで、地域の普通救命講習会への参加を案内しました。応急手当の一連の流れや講習会案内を、二次元コードを活用し、必要な情報を自分で選択できるようにしました。持ち帰る生徒の様子も見られました。

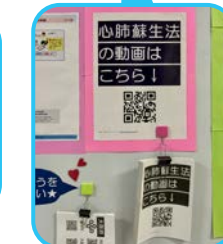
●関連⇒保健「応急手当の意義と実際」



大阪教育大学附属池田中学校
養護教諭 吉田 かねで 先生
養護助教諭 岡崎 菜々 先生



二次元コードを掲載したプリントを複数枚用意し、クリップで留めて自由に持ち帰れるような工夫。



「スポーツと生きる人」から、スポーツの今とこれからを知る

富山晋司さん

バスケットボール男子日本代表チームテクニカルスタッフ



Profile ● とみやま しんじ

1981年、東京都生まれ。小学6年のときにバスケットボールと出会う。母校の中学校での外部コーチを経て、東京アパッチや千葉ジェッツ、大阪エヴェッサなどで指導者の実績を積む。2021年に男子日本代表チームのテクニカルスタッフに就任。2023年の「FIBAバスケットボールワールドカップ2023」では、2024年オリンピックパリ大会の出場権獲得に貢献した。日本バスケットボール協会(JBA)技術委員会テクニカルハウス部会メンバー。

チーム強化や試合の勝利に欠かさないスポーツアナリスト。バスケットボール男子日本代表チームテクニカルスタッフの富山晋司さんは、2021年の就任以降、綿密な情報収集とデータ分析でチームを勝利に導いてきた。今回は、中学校のボランティアからプロチームのコーチ、そしてアナリストへと進んだ「バスケット人生」を振り返ってもらった。(取材・文／荒木美晴)

富山さんがバスケットボールと出会ったのは、小学6年の冬。自宅のテレビで偶然、NBAファイナルの「シカゴ・ブルズ対フェニックス・サンズ戦」を観て、迫力あるプレイに心を奪われた。中学ではバスケットボール部に入部。だが、1年生はあまりボールに触らせてもらえない。そこで、バスケットゴールが設置された自宅近くの教会に毎日通い、ひとり腕を磨いた。学校側から見れば、「我が道を行き、練習に参加しない生徒」だ。しかし、当時のコーチは富山さんを頭ごなしに叱ることはせず、陰



©日本バスケットボール協会

2023年9月、アジア競技大会(杭州)に向けてバスケットボール男子日本代表を指導する富山さん(写真左)。

の努力に理解を示し、試合にも出る事ができた。富山さんは「好きになったものを嫌いにさせない指導をしてください。それは今も感謝していますね」と、当時は振り返る。コーチを志すようになったのは、大学に入ってから。地域のクラブチームでプレイをしながら、2年のときにボランティアで母校の中学でアシスタントコーチを務めることになった。

この頃、富山さんはアメリカの大学バスケットボール界への造詣も深めており、規律と戦術で戦うそのチーム

づくりと、自身の中学での指導がリンクしたという。「突出した選手がいなくても、体格に勝る相手をどうやっつけるか、といった目線が身に付いた時期でした」

ボランティアは夜勤の仕事などしながら28歳頃まで続けた。その間に単身でアメリカやヨーロッパに赴き、プレイを多角的に分析する力を養った。その後、当時のbjリーグの東京アパッチが募集していたアシスタントコーチに応募、採用されたのを皮切りに、NBLやBリーグのクラブでもヘッドコーチやゼネラルマネージャー職に従事。そして、2021年に日本バスケットボール協会(JBA)から声がかかり、現職に就いている。

富山さんの仕事は多岐にわたる。まずは、東京2020オリンピック(2021年開催)後に発表した「テクニカルレポート」のように、代表チームの大会ごとの振り返りの記録を残すことだ。もうひとつが、スカウティング(相手チームの分析)やコーチらのコーチングに必要なデータや映

像をまとめる作業だ。また、JBAは「気通貫」で選手の育成・強化に力を入れているため、男子A代表の課題をアンダーカテゴリー代表に共有するための資料づくりにも力を入れる。さらに、合宿や試合のチーム構成によっては、富山さん自身がアシスタントコーチを担うこともあるそうだ。

「Aによる膨大な数字のデータと、コートの上で起きている現象をつなげていくことが私の役割。どんな現場でも、バスケットボールをいろんな角度から見えてきた経験が生きている」と富山さん。日本中のファンが注目する2024年オリンピックパリ大会でも、「自分ができていることをやり切りたい」と、言葉に力を入れている。

偶然バスケットボールに出会った自分が、今は日の丸をつけて世界と戦っていることについて、「奇跡的なことだと思う。すごいことになってしまったという自覚はあるんですけど、笑う富山さん。「あとは、この経験をバスケット界に還元していきたい。それがこれからの目標ですね」

学研・教科の研究 体育・保健体育ジャーナル 第25号 令和6(2024)年8月発行

『小学校体育ジャーナル』(通巻112号)『中学校保健体育ジャーナル』(通巻138号)

●お問い合わせは、「小中教育事業部」へ
〒141-8416
東京都品川区西五反田2-11-8 学研ビル
TEL.03-6431-1151

●「体育・保健体育ジャーナル」のPDF版は、
WEBページから

学研 学校教育ネット <https://gakkoyoiku.gakken.co.jp/>

発行人 木村昌弘
編集人 麻生征宏
発行所 株式会社Gakken
デザイン 西田美千子
表紙イラスト ミヤザキ
印刷所 株式会社広済堂ネクスト